

京都の改革

7

京都の小学校は、複数の目で子供を見る取り組みに力を入れる。

「センス、あんな」

「もっとおかず減らして」

全校児童1000人を抱える京都市立太秦小学校の1年の給食はにぎやかだ。食べられないと泣き出す子や、遊びたくて席を立たずにはいられない子もいて、教員2人が、配膳に、なだめ役にと、ひっきりなしに動いている。

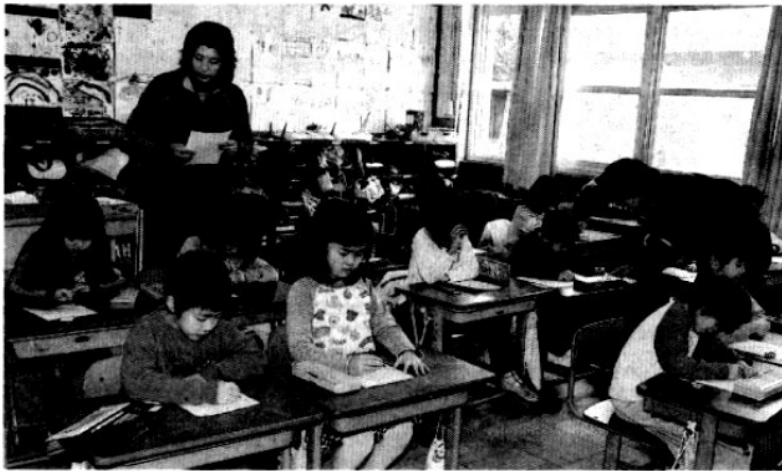
京都市は2003年度から、独自予算で全市立小学校181校の1年生を35人学級としている。04年度からは2年生も35人学級とし、規模が30人を超える場合、夏休み前まで2人で指導する体制にした。太秦小では1年生5学級の担当

教育ルネサンス

No 520



算数の問題を解く1年生を丹念に見て回る2人の教員（太秦小で）



複数指導で目配り充実

を、男性と女性、若手とベテランなどとし、ペアの組み方を工夫している。

その1人、牧沢敏教諭(29)は「先生に話を聞いて

ほしくてたまらないのが1年生。ゆっくり耳を傾けられるし、休み時間も、僕が外遊びならペアの先生が教室での遊びと、自然に役割分担しています。中原佑梨

講師23は「給食の配膳もひと苦労。2人なら目配りが行き届きます」と続ける。別の1年生の教室をのぞくと、採用1年目の女性教員が計算問題の答えを読み上げ、ベテラン女性教員が子供たちのノートを丹念に見て回っていた。

*

低学年の少人数教育について、教員からは「指導がやりやすくなった」「連絡帳など、家庭とのやりとりがきめ細かくできる」などの声が上がった。だが、子供への効果という点で、市教委は「長い目で見る必要が

ある」(学校指導課)と慎重だ。最も重要視しているのが、家庭での生活習慣や学習習慣の確立だからだ。市教委では05年3月、市内のすべての小、中学生に1冊ずつ「家庭学習の手引き」も配った。学年別の学習時間の目安や勉強のポイントを示したほか、1、2年生のページには「今日のプリントや宿題を(親子で)一緒に確かめましょう」といった文言や、鉛筆の正しい持ち方の図まで書いた。保護者への対応が以前より難しくなったと言われているが、学力を底上げする

には家庭との連携が欠かせない。

*

京都市では8割の小学校で、高学年の教科担任制も取り入れている。その分の教員は市の負担で採用しているが、太秦小では、5、6年の担任が、それぞれの得意教科である理科、社会、体育、家庭などで、別の学級を受け持つことにした。規模の大きい学校だからこそ出来ることだが、これなら教員の増員も必要ない。今年度の5、6年生へのアンケートでは、8割が教科担任制を「授業がいろいろで楽しい」「わかりやすい」などと評価した。

さらに、教科担任制導入は、別の面での効果も生み出している。市内で最大の小学校だが、不登校がゼロなのだ。

「教科担任制だと、複数の教員の目で、子供のよさや、しんどさに気づけるのです」

岡田邦男校長(56)が胸を張った。(西堂路綾子)

少人数学級と教科担任制 文部科学省によると、1クラス40人を下回る少人数学級は小学校低学年を中心に急速に広がり、今年度は、東京都以外の全道府県で、何らかの導入がされている。公立小学校で教科担任をとする教科が最も多い音楽は、2004年度で5年33・9%、6年35・8%。次いで理科(5年19・1%、6年21・2%)、家庭科(5年17・5%、6年19・4%)となっている。